

## 第2次読書活動推進計画【概要版】

### I 計画について

#### 〈計画策定の趣旨〉

本市においては、平成25年6月に策定した「宇都宮市読書活動推進計画」に基づき、子どもを含む市民の読書活動を推進してきたが、社会情勢の著しい変化への対応や、近年、読書活動の拠点である図書館には、社会の変化に対応した学習機会の提供や地域コミュニティの維持・活性化への貢献といった役割が求められていることから、現行計画を改定し、第2次計画を策定する。

#### 〈計画の位置づけ〉

「宇都宮市地域教育推進計画」に基づき人づくりを進める中で、市民の読書活動の推進に焦点を当てた個別計画であり、上位計画である「宮っこ未来ビジョン」や「宇都宮市地域教育推進計画」など関連する計画等との整合を図る。

#### 〈計画の期間〉

平成30年度（2018年4月）～34年度（2023年3月）までの5年間

### II 本市の読書活動推進の現状と課題

#### 1（1）読書活動を取り巻く状況（社会情勢の変化）

- ・少子化、超高齢化の進行による人口減少、個人の関心やライフスタイルの多様化・複雑化、経済的格差の広がり
- ・地域コミュニティの衰退とつながりの希薄化、情報通信技術（ICT）の進展に伴う資料の電子化等の技術活用
- ・グローバル化の進展（英語の教科化）、地域への関心や郷土愛の高まり、地域資料などの散逸、劣化の進行
- ・市内の書籍小売業事業所数の減少、書籍、雑誌の出版点数の減少、一世帯当たりの書籍・雑誌購入費用の減少
- ・読書率（普段本を読む人）の減少と不読率の上昇

#### 1（2）読書活動を取り巻く状況（国・県の動向）

【国】中教審答申「個人の能力と可能性を開花させ、全員参加による課題解決社会を実現するための教育の多様化と質保証の在り方について」（平成28年5月30日）

・個人や社会のニーズに応じた学習機会が提供され、個人が自己の責任と判断で課題解決に取り組むとともに、地域社会が住民の力を総合して地域の課題を解決することが求められている。

【国】文部科学省「人々の暮らしと社会の発展に貢献する持続可能な社会教育システムの構築に向けて（論点の整理）」図書館等について（平成29年3月28日）

・「地域課題解決学習」の推進による地域コミュニティの維持・活性化への貢献、社会的包摂への寄与、社会の変化に対応した学習機会の提供の役割が求められる。

・今後、他館との相互資料貸借の充実や企業等と連携した地域課題解決に資する講座の開設などにより、より実践的な知的サービスが提供されることが期待される。

・来館者へのサービスに加えて、アウトリーチ活動を充実させることにより、高齢者や障害者、困難を抱える人々等にも読書の機会を提供し、社会的包摂の観点から地域のニーズに積極的・能動的に responding していくことが期待される。

・近年、社会問題となっている子供の貧困は、子供の読書体験にも影響を与えることが懸念され、困難を抱えた親子に対して読書の機会を提供していくことも重要な課題。

【県】栃木県教育委員会「子どもの読書活動に関する実態調査結果」（平成29年1月）

・1か月に本を読まない生徒の割合（不読率）が高校生39.9%。となっており、その理由として「携帯電話やスマートフォンでのやりとりで時間を使う」という回答が最多。

【他】独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもの読書活動の実態とその影響・効果に関する調査研究」（平成25年2月）

- ・成人のうち、子どもの頃の読書量が多いほど読書が好きである割合が高く、1か月に読む本の冊数や1日の読書量も多い。
- ・成人のうち、子どもの頃の読書活動が豊富であるほど、読み聞かせ等読書を通した子どもとの関わりの機会が多い。

#### 2 これまでの取組の成果と課題

◎基本目標1 多様な図書館サービスを利用するなど、あらゆる市民が読書活動に親しんでいます。

○基本指標1：図書館資料の貸出冊数 4,566,016点（H23）⇒4,222,216点（H28）

○基本指標2：図書館の登録率 33.1%（H23）⇒32.2%（H28）

◎基本目標2 図書館、地域、学校の連携のもと、宮っ子が読書活動や学習活動に励んでいます。

○基本指標3：高校生の1ヶ月の読書量 1.4冊（H23）⇒1.47冊（H28）

○基本指標4：子どもの読書に関わるボランティアの活動人数 1,236人（H23）⇒1,204人（H28）

◎基本目標3 個人や団体、地域がそれぞれの課題を解決するために、図書館サービスを利用しています。

○基本指標5：レファレンスに対する利用者満足度 52.6%（H23）⇒60.3%（H28）

◎基本目標4 市民が高度情報化に対応した資料・設備を利用し、ニーズに応じたデジタル情報を活用しています。

○基本指標6：図書館のインターネット端末の利用件数 21,305件（H23）⇒38,041件（H28）

◎基本目標5 図書館の適切な環境整備と運営により、市民が快適に図書館を利用しています。

○基本指標7：図書館の読書環境に関する利用者満足度 82.0%（H23）⇒79.2%（H28）

#### 3 市民の読書活動の状況

○生涯学習課「市民意識調査」（平成28年11月）

- ・最近1年間の市民の読書媒体 ⇒ 紙の本66.5%、電子図書のみ1.8%、紙の本と電子書籍13.6%、読まない15.1%
- ・最近1年間の図書館の利用 ⇒ 「かつて（1年以上前に）利用したことがある」19.9%、「これまで利用したことがない」39.7%
- ・図書館の利用目的 ⇒ 「調べものをするため」38.6%（「資料の貸出返却」、「資料の閲覧」について多い）

○学校教育課「読書アンケート」（市は平成28年11月、全国は5月）

- ・1人あたりの1か月の読書量 小学生：本市29.7冊、全国：11.4冊／ 中学生：本市12.6冊、全国：4.2冊

○図書館「利用者アンケート」（平成28年10月）

- ・来館の目的 ⇒ 「本を無料で利用する」について、「調べものをする」、「仕事や生活に必要な情報を得る」が多い。
- ・図書館サービスの認知度（資料相談・レファレンス） ⇒ 使ったことがない19.1%、知らない4.9%
- ・図書館が目指すべき方向 ⇒ 「本を増やす」について、「子どもの読書活動支援をより一層充実する」が多い。

○宇都宮読書推進ガイドブック「HON-miya」に関するアンケート（平成28年9月）

- ・市立図書館を利用したことがない高校1年生の割合 ⇒ 52.0%

○図書館「年齢別利用人数統計」に基づく各世代の人口増減に対する利用者増減の割合（平成25年度と平成28年度の比較）

- ・平成25年度と平成28年度比較では、人口の全世代が0.9%微増する中、利用者数は全世代で4.6%減少
- ・利用者数の減少幅の大きい年代は、23歳～29歳が22.3%減、30歳～39歳が21.2%減、人口も他の年代と比較し減り幅が大きい。
- ・一方、60歳以上の利用者においては、人口と同様増加傾向にある。

○図書館「親子読書アンケート」（平成29年9月）

- ・子どもに読み聞かせをしていますか ⇒ 「はい」85.0%
- ・読み聞かせによって子どもに見られる変化 ⇒ 「絵や文字に興味を持つ」22.5%、「好きな絵本をひとりで読む」20.1%

#### 4 今後の読書活動推進に向けた課題

##### （1）多様なニーズを捉えた読書活動の推進が必要。

■すべての市民が読書活動に親しむことができる読書環境の整備が必要。

- ・本を読まないあるいは読書活動の拠点である図書館を利用したことがない市民への働きかけが必要。
- ・読書意欲の高い市民に対し、多様化するニーズを捉えた読書環境を整えることが必要。
- ・日常的に読書活動に親しむため、図書館の利用促進が必要。
- ・高齢者や障害者、困難を抱える人々に対して読書の機会提供が求められている。
- ・ICTの進展に伴い、電子図書の活用等について検討を進めることが必要。
- ・施設設備に関する計画的な改修等が必要。

##### （2）すべての子どもが読書に親しめる機会の提供が必要。

■子どもが継続的に読書に親しむため、家庭へのはたらきかけや子どもの読書に関わる人材の確保が必要。

- ・乳幼児期の読書経験がその後の読書活動に影響を及ぼすことから、本に親しむ機会の提供が必要。
- ・図書館資源等を活用した読書機会の格差解消に資する取組みの検討が求められている。
- ・子どもの読書活動を支援するボランティアの後継者が不足しているため、読書環境に携わる人材のより一層の育成および確保が必要。
- ・小学校での英語の教科化に伴い、子どもが英語に親しめる読書環境の充実が必要。

##### （3）課題解決支援の更なる強化が必要。

■著しく変化する社会環境に対応するため、学びの場の提供や課題を解決するための支援が必要。

- ・生涯学習の場として、関係機関等と連携し市民のニーズや今日的課題に対応した講座の開設、積極的な地域課題解決への貢献が求められている。
- ・地域資料等の貴重な資料のデジタル保存と継承などニーズに応じたデジタル情報の環境整備と活用促進が必要。
- ・図書館資源を有効かつ最大限活用し、様々な課題解決支援に対応するため、職員のスキルアップと、レファレンスサービスのPRが必要。

##### （4）本を通して人と人がつながるしくみづくりが必要。

■本と人をつなぐだけでなく、図書館資源を生かして人と人がつながる交流の場をコーディネートする役割が図書館に求められている。

- ・本を通し人が集い交流する場の提供が必要。
- ・読書関係団体や企業等との連携による図書館資源のさらなる活用や読書活動を支援する人材の育成が必要。

### Ⅲ 基本的な考え方

#### 基本理念

市民が生涯にわたり読書活動に親しむため、社会の変化に対応した多様な読書機会を提供するとともに、人と人がつながる読書活動を推進します。

#### 〈基本目標Ⅰ〉

市民一人ひとりが個に応じた多様な読書活動に親しんでいます。

#### 基本指標 i

最近1年間で読書（紙の本・電子書籍）をしている人の割合  
81.9%（H28年度）⇒83%（H34（2022）年度）  
市民意識調査

#### 〈基本目標Ⅱ〉

すべての宮っ子が読書活動を楽しんでいます。

#### 基本指標 ii

児童書の貸出冊数  
1,560,000冊（H28年度）  
⇒1,565,000冊（H34（2022）年度）  
図書館利用統計

#### 基本指標 iii

高校生の1か月の読書量  
1.47冊（H28年度）⇒1.6冊（H34（2022）年度）  
子どもの読書活動に関する実態調査

#### 〈基本目標Ⅲ〉

個人の問題や社会が抱える課題を解決するために図書館資源を活用しています。

#### 基本指標 iv

レファレンスサービスに対する利用者満足度  
60.3%（H28年度）⇒65%（H34（2022）年度）  
図書館利用者アンケート

#### 〈基本目標Ⅳ〉

読書活動を介して人と人が交流しています。

#### 基本指標 v

読書推進事業の参加人数  
24,000人（H28年度）⇒25,000人（H34（2022）年度）  
図書館概要

### Ⅳ 施策の展開

施策	事業・取組等（■新規）	主な指標（現状→H34（2022）年度目標）			
施策1 さまざまな市民に向けた読書活動の推進	■ ①「よるとしよ」事業の実施	●アウトリーチサービスの実施回数 〈0回/年→15回/年〉 ●図書館HPアクセス件数 〈900,000件→1,000,000件〉			
	■ ②転入者向け図書館PR事業の実施				
	③読書活動の啓発事業の実施				
	④センター図書室等の地域性や利用者層に合ったサービスの提供				
施策2 読書機会の少ない人々に向けたサービスの充実	■ <b>重</b> ⑤アウトリーチサービスの推進	●ウチでもどこでも読み聞かせ事業の実施回数 〈2回/年→10回/年〉 ●アウトリーチサービスの実施回数 〈0回/年→15回/年〉 ●はじめてえほん事業の実施回数 〈0回/年→16回/年〉 ●学校希望図書利用件数 〈1,600件→1,800件〉 ●高校生対象の情報発信回数 〈1回→30回〉			
	⑥障がい者向けサービスの充実				
施策3 ICTを活用したサービスの充実	<b>重</b> ⑦ICT技術を活用した読書活動の推進				
	⑧地域資料のデジタルアーカイブ化の推進と資料の公開				
施策4 読書環境の整備	⑨読書意欲を高めるサービスの提供				
	⑩図書館施設の改修・機能向上事業の推進				
施策5 子どもの読書習慣を育む機会の充実	<b>重</b> ⑪「ウチでもどこでも読み聞かせ」事業の実施		●みや学講座の実施回数 〈0回/年→10回/年〉 ●行政支援サービス貸出冊数 〈1,700冊/年→2,000冊/年〉		
	■ ⑫アウトリーチサービスの推進【再掲】				
	⑬「うつつのみやこども賞」事業の実施				
	⑭読書活動を支援するボランティアの育成・強化				
施策6 乳幼児期の子どもへの読書活動の推進	■ <b>重</b> ⑮はじめてえほん事業の実施			●みや学講座の実施回数 〈0回/年→10回/年〉 ●行政支援サービス貸出冊数 〈1,700冊/年→2,000冊/年〉	
	⑯乳幼児やその保護者に対する読書活動支援の充実				
施策7 小中学校との連携・支援の充実	⑰読書活動を支援するボランティアの育成・強化【再掲】				
	<b>重</b> ⑰授業に役立つ資料・情報提供の充実				
	⑱学校図書館司書業務嘱託員等の育成				
施策8 中高生が参加できる事業の推進	⑲学校図書館における読書活動の充実	●みや学講座の実施回数 〈0回/年→10回/年〉 ●行政支援サービス貸出冊数 〈1,700冊/年→2,000冊/年〉			
	■ ⑳中学生による読書推進事業				
施策9 地域情報の収集・提供	<b>重</b> ㉑高校生の本や読書に関する情報交換・発信事業の推進				●みや学講座の実施回数 〈0回/年→10回/年〉 ●行政支援サービス貸出冊数 〈1,700冊/年→2,000冊/年〉
	■ <b>重</b> ㉒みや学講座の開催				
	⑳地域資料のデジタルアーカイブ化の推進と資料の公開【再掲】				
施策10 各図書館の特色を活かした事業の実施	㉑宮の魅力再発見事業の推進		●世を超えた交流（講座・イベント）の実施回数 〈18回/年→23回/年〉		
	<b>重</b> ㉒行政支援サービスの推進				
	㉒科学・技術情報提供サービスの充実				
	㉓ビジネス支援サービスの充実				
	㉔宇都宮アグリビジネスブランド化への支援				
	㉕宇都宮プロスポーツアーカイブ事業の推進				
	㉖子育て・家庭生活支援情報の充実				
施策11 課題解決に役立つ資料や情報の提供	㉗生活応援サービスの充実	●世を超えた交流（講座・イベント）の実施回数 〈18回/年→23回/年〉			
	㉘レファレンスサービスの充実				
	<b>重</b> ㉙世を超えた交流の場の創出				
施策12 人と人をつなぐ場や機会の提供の充実	㉚本を通じて語り合える事業の充実			●世を超えた交流（講座・イベント）の実施回数 〈18回/年→23回/年〉	
	㉛読書活動を支援するボランティアの育成・強化【再掲】				
施策13 市民との協働による読書活動の推進	㉜読書関係ボランティアの交流の推進		●世を超えた交流（講座・イベント）の実施回数 〈18回/年→23回/年〉		
	㉝読書関係ボランティアの交流の推進				

### Ⅴ 計画の推進

- 計画期間 平成30年度（2018年4月）～平成34年度（2023年3月）までの5年間
- 計画の進行管理 事業の進捗状況については「社会教育委員の会議」等へ報告し、意見を聴取する。
- 計画の推進体制 本計画の着実な推進を図るため、施策・事業の実施にあたっては、図書館、生涯学習センター図書室等、さらに市民、家庭、学校等が連携することにより、様々な事業に取り組む。